

チリ経済情勢報告(2026年5月)

<概要> 景気は悪化している。

- 消費は停滞している。
- 生産は、工業、鉱業ともに減少。企業マインドは悪化している。
- 失業率は上昇している。
- 物価は上昇している。
- 貿易は黒字となっている。
- 銅価格は上昇、為替はペソ高傾向、株価は下落で推移している。

先行きについては、財政・税制などの国内政治動向及び米国の通商政策、中東情勢の影響等を含む世界経済情勢に留意する必要がある。

1. 経済指標

(1) GDP成長率(2026年Q1)

2026年の第1四半期(1~3月期)の実質GDP成長率は前年同期比▲0.5%と、11期ぶりに減少した。また、季節調整済前期比の伸び率は▲0.3%と減少した。

① 需要項目別の動向

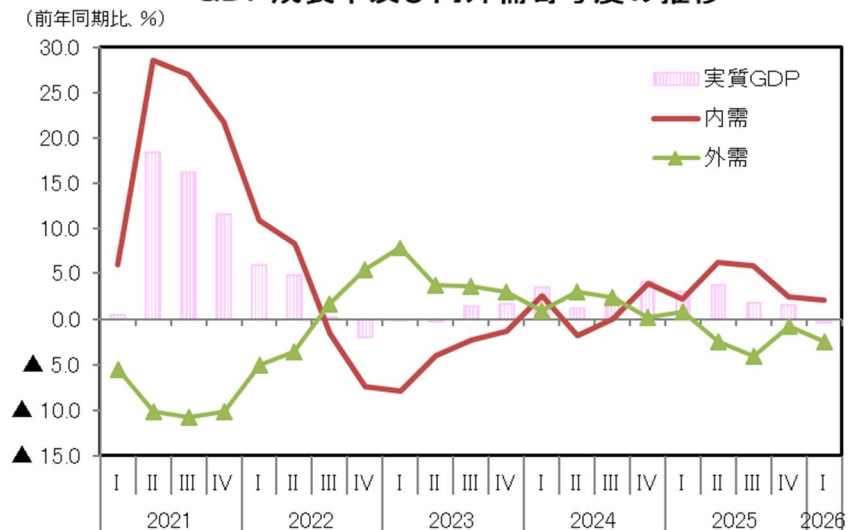
内需は前年同期比2.1%となった(寄与度2.0%)。消費は前年同期比2.6%(寄与度1.9%)となった。内訳は、民間消費が同2.5%、政府消費は同3.0%となった。総固定資本形成は前年同期比3.2%(寄与度0.8%)となった。内訳を見ると、機械・設備投資が同10.1%、建設・住宅投資が同▲0.9%であった。在庫品増加は寄与度▲0.6%であった。

外需の寄与度は▲2.5%となった。輸出は前年同期比▲4.9%となった。品目別では銅が同▲6.8%、鉱業品全体は同▲4.3%となった。財全体では同▲4.6%、農林水産品は同▲22.8%となった。輸入は同2.0%であった。

② セクター別の動向

セクター別では、銅が前年同期比▲7.0%となり、その他の鉱業は同24.8%となった。鉱業全体では同▲3.1%となった。製造業は同▲2.0%、農林業は同▲5.4%、水産業は同▲18.6%となった。

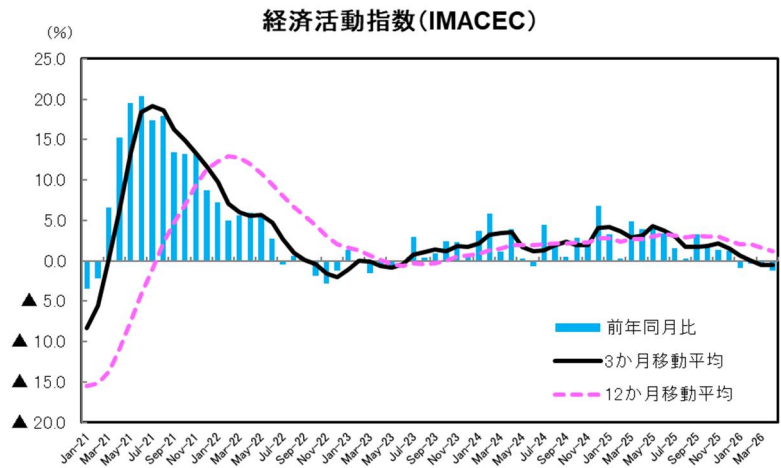
GDP成長率及び内外需寄与度の推移



(2) 経済活動指数 (IMACEC)

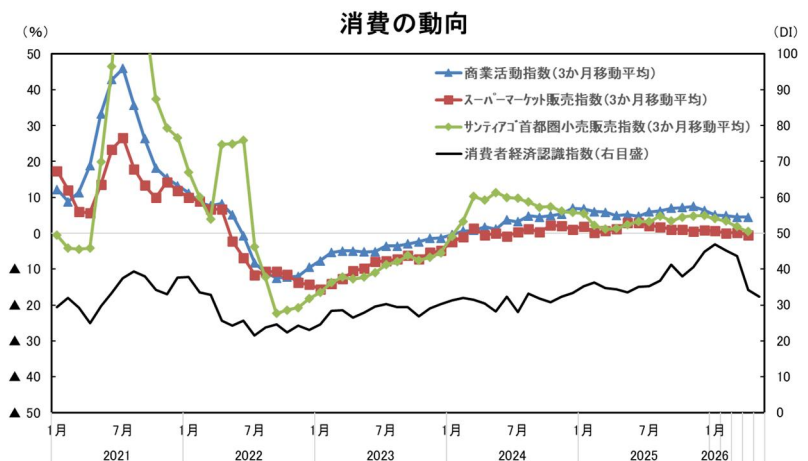
— 前年同月比 ▲1.2% —

4月のIMACECは、前年同月比 ▲1.2% (季節調整済前月比は0.1%) となった。営業日数は昨年と同じであった。鉱業は前年同月比 ▲11.8%、非鉱業部門は同0.4%であった。季節調整済前月比では、鉱業は0.8%、非鉱業部門は▲0.0%となった。



(3) 消費 — 停滞している —

- ① 4月の商業活動指数(実質、INE公表)は、前年同月比3.2%、同指数の小売業(除く車)は同3.0%となった。
- ② 4月のスーパーマーケット販売指数(実質、INE公表)は、前年同月比 ▲0.1%となった。
- ③ 4月のサンティアゴ首都圏州小売販売指数(チリ商工会議所公表、既存店、暫定値)は、前年同月比 ▲0.6%となった。



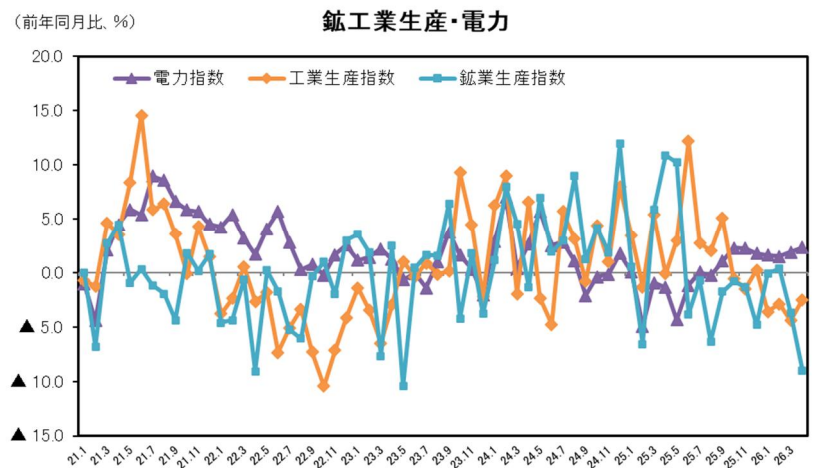
- ④ 5月の消費者経済認識指数(IPEC、GfK Adimark公表)は32.3(前月差 ▲1.9)、個人の景気認識(現状)は33.2(同 ▲3.6)と、引き続き50(中立点)を下回っている。
- ⑤ 5月の新車販売台数は、2万4,449台(前年同月比0.5%)となった。

(4) 鉱工業生産、電力 — 工業、鉱業ともに減少 —

4月の工業生産指数は、前年同月比 ▲2.5%となった。セクター別では石油派生製品が増加(寄与度0.7%)、食料品が減少(同 ▲2.7%)に寄与した。

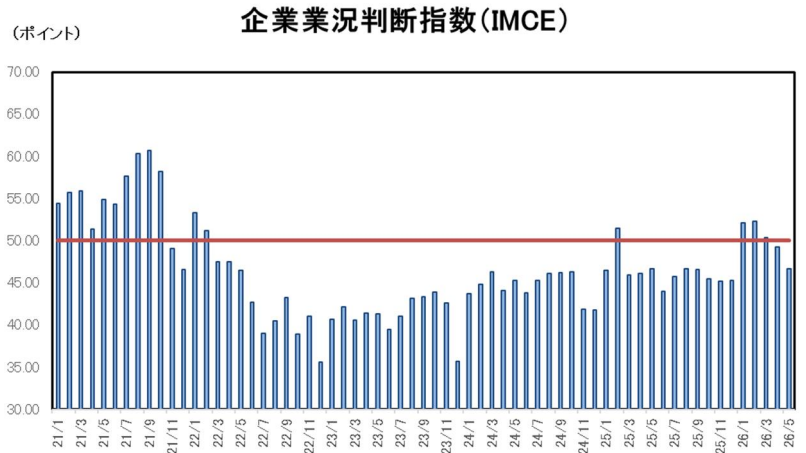
4月の鉱業生産指数は、前年同月比 ▲9.0%、銅生産量は同 ▲13.8%となった。

4月の電力指数は、前年同月比2.3%となった。



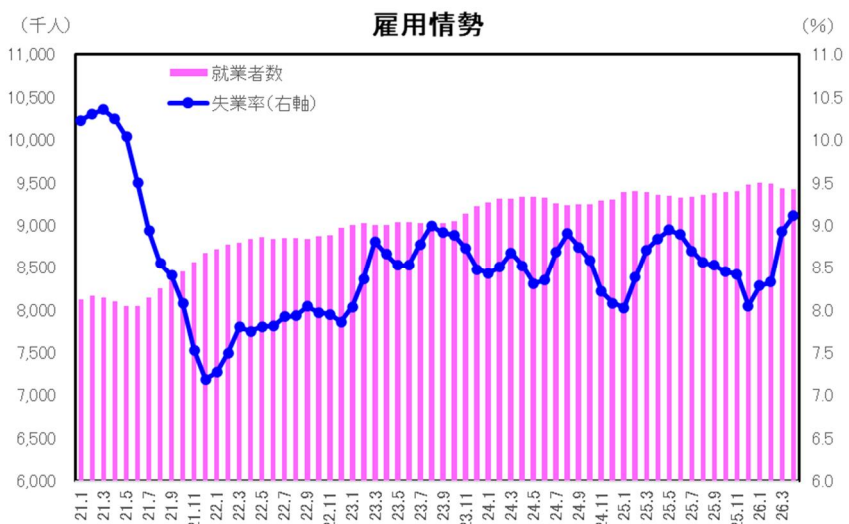
(5) 企業の業況判断－悪化－

5月のIMCE(企業業況判断指数)は46.7ポイントで、前月差▲2.6ポイントとなり、2か月連続で中立点を下回った。内訳を見ると、鉱業が51.7(同▲8.9ポイント)、商業が52.0(同▲1.7ポイント)、製造業が46.6(同▲0.6ポイント)、建設業が34.3(同▲1.3ポイント)となった。



(6) 雇用－失業率は上昇－

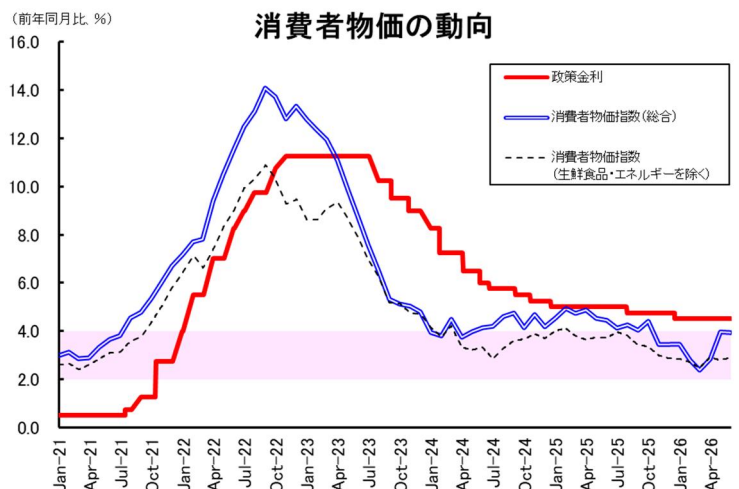
2～4月期の失業率は9.1%(前年同期差0.3%)と、高い水準にある。労働力人口は10万5,375人増加(前年同期比1.0%)、就業者数は6万8,299人増加(同0.7%)し、失業者数は3万7,076人増加(同4.1%)している。就業者数を職業別にみると、社会保障サービスが前年同期比寄与度0.4%と増加に寄与し、公務が同▲0.4%と減少に寄与している。



4月の賃金(速報値)は、名目は前年同月比5.7%、実質は同1.7%となった。

(7) 物価－上昇している－

5月の消費者物価指数(総合)は、前月比は0.2%、前年同月比は3.9%となった。品目別に前年同月比の動きを見ると、運輸(10.1%)、レストラン・ホテル(6.4%)等が上昇した。なお、生鮮食品・エネルギーを除く指数は、前月比0.4%、前年同月比2.9%であった。



中央銀行アンケート(6月)によるインフレ期待は、1年後:3.1%(前月3.3%)、2年後:3.0%(前月3.0%)となっている。

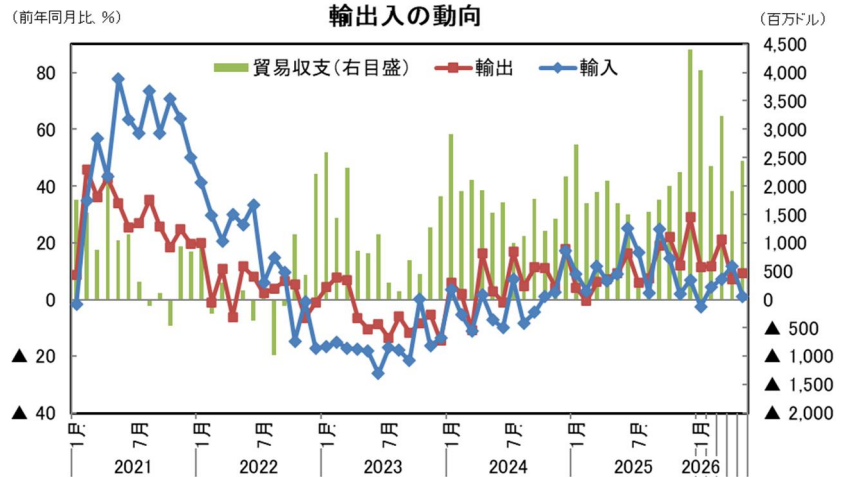
4月の生産者物価(全産業)は、前月比1.6%、前年同月比は17.7%となった。鉱業(前年同月比30.8%)、建設資材(同4.4%)等が上昇した。

(8) 貿易－黒字となっている－

① 5月の輸出額（FOB）は、95.4億ドル（前年同月比9.3%）となった。内訳を見ると、鉱業品61.6億ドル（同14.7%）（輸出額全体の64.6%）、農林水産品4.6億ドル（前年同月比▲18.1%）（輸出額全体の4.9%）、製造業品29.2億ドル（前年同月比4.4%）（輸出額全体の30.6%）となった。鉱業品のうち、銅は51.4億ドル（前年同月比8.7%）（鉱業品輸出額全体の83.5%）となった。

② 5月の輸入額（FOB）は、71.1億ドル（前年同月比1.0%）となった。内訳（CIF）は、消費財20.3億ドル（同1.7%）、中間財40.5億ドル（同8.1%）、資本財15.8億ドル（同▲12.8%）となった。

③ 5月の貿易収支（FOB）は、24.3億ドルの黒字となった。



(9) 対日・中・韓・米貿易

① 対日貿易（FOB）：5月の貿易額は、輸出額7.2億ドル（前年同月比4.3%）、輸入額1.7億ドル（同4.3%）、貿易総額では8.9億ドル（同4.3%）となった。

② 対中貿易（FOB）：5月の貿易額は、輸出額29.8億ドル（前年同月比9.2%）、輸入額18.9億ドル（同▲2.6%）、貿易総額では48.7億ドル（同4.3%）となった。

③ 対韓貿易（FOB）：5月の貿易額は、輸出額6.7億ドル（前年同月比77.1%）、輸入額1.0億ドル（同11.0%）、貿易総額では7.8億ドル（同63.9%）となった。

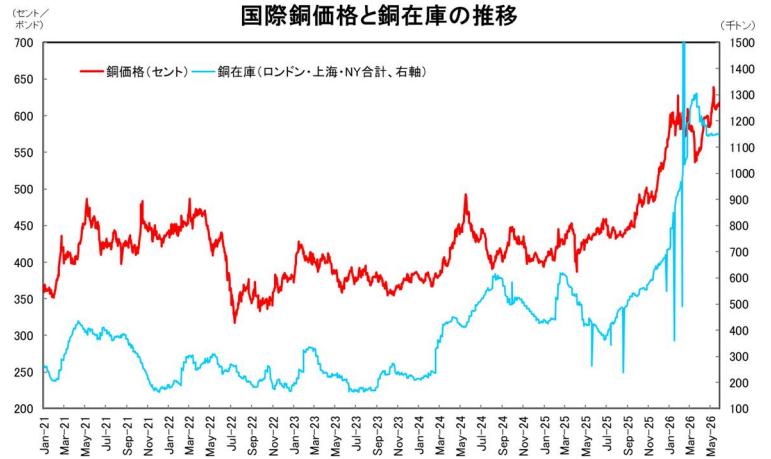
④ 対米貿易（FOB）：5月の貿易額は、輸出額16.4億ドル（前年同月比3.4%）、輸入額14.3億ドル（同14.7%）、貿易総額では30.7億ドル（同8.4%）となった。

2. 市場の動き

(1) 国際銅価格－上昇－

5月の国際銅価格は、1ポンド5.85ドル(1日)で始まった。月末には6.18ドル(29日)と前月末比4.6%で終了した。

5月の銅在庫は、114万5,430ト(1日)で始まり、月末には114万6,602ト(29日)と前月末より増加した。



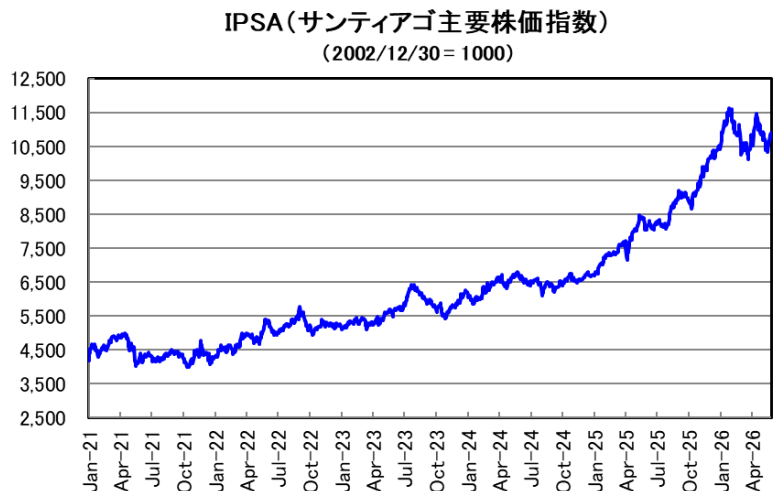
(2) 為替－ペソ高傾向－

5月の為替は、1ドル911ペソ(4日)で始まった。その後、ペソ高傾向で推移し、月末には891ペソ(29日)と前月末差▲9.5ペソのペソ高で終了した。



(3) 株価－下落－

5月のIPSA値(サンティアゴ主要株式指数)は、10,716ポイント(4日)で始まった。その後一時下落ののちに上昇し、月末には10,788ポイント(29日)と前月末比▲1.1%で終了した。



3. 経済トピックス(報道等情報)

(1) 2026年第1四半期のGDP:チリ中央銀行発表

5月18日、チリ中央銀行は、2026年第1四半期のGDPを公表した。

●2026年第1四半期のGDP

①経済成長率

チリの実質GDP成長率について、直近の2026年第1四半期は前年同期比▲0.5%のマイナスとなった。また、季節調整済の前期比では▲0.3%のマイナスであった。

②支出項目別の内訳及び主な要因

2026年第1四半期のGDPを、支出項目別に見ると、内需は前年同期比2.1%（寄与度2.0%）であった。このうち、消費は前年同期比2.6%（寄与度1.9%）、総固定資本形成は同3.2%（寄与度0.8%）、在庫品増加の寄与度は▲0.6%となっている。また、輸出は前年同期比▲4.9%（寄与度▲1.8%）、輸入は同2.0%（寄与度▲0.7%）となり、外需の寄与度は▲2.5%であった。主な要因は以下のとおり。

ア 消費

民間最終消費支出は前年同期比2.5%増加しており、特に医療、運輸、レストラン・ホテルといったサービス消費の寄与が大きかった。政府最終消費支出は前年同期比3.0%の増加となり、主に保健関連支出の増加が反映された。

イ 投資

総固定資本形成は前年同期比3.2%の増加を記録し、特に電気・電子機器及び輸送機器への支出増加による設備投資の寄与が大きかった。他方で、建設投資は建築業の業績の落込みを反映し減少した。また、在庫品投資も減少を記録した。

ウ 輸出入

輸出入は、輸出の減少と輸入の増加の結果、GDP成長率にマイナスの効果をもたらした。輸出は前年同期比▲4.9%の減少となり、財輸出においては果物及び銅の輸出減少が反映された。サービス輸出は特に観光分野の影響を受けて減少となった。輸入は前年同期比2.0%の増加を示しており、財輸入においては電気・電子機器、輸送機器及び原油の輸入増加が反映され、サービス輸入についても観光分野を中心に増加した。

③産業別の内訳及び主な要因

2026年第1四半期のGDPを産業別に見ると、農林業、鉱業、製造業及び水産業が減少に寄与した一方で、特に増加に寄与したのは個人向けサービスであった。主な要因は以下のとおり。

ア 農林業

農林業は、前年同期比▲5.4%の減少を記録した。ブドウ、リンゴなどの果実類、ジャガイモや穀物等の生産減少が影響した。畜産はわずかに増加したものの、林業などその他の活動においても減少が見られた。

イ 水産業

水産業は、漁業における漁獲量減少と養殖業の生産量増加の結果、前年同期比▲18.6%の減少を記録した。漁業においてはイワシ、アジ等の漁獲量が減少し、養殖業においてはアトランティック・サーモンをはじめとするサケ科魚類の生産量増加が見られた。

ウ 鉱業

鉱業は、前年同期比▲3.1%の減少を記録した。主な要因は銅の生産量減少であり、

これをリチウム、金及び銀の生産増加が一部相殺した。

エ 製造業

製造業は、主に水産加工製品の生産減少による食品生産の減少の影響を受け、前年同期比▲2.0%の減少を記録した。他方で、金属製品、機械・設備の生産は、鉱業関係の需要増加に伴って増加した。

オ 電気・ガス・水道・廃棄物処理

電気・ガス・水道・廃棄物処理は、前年同期比0.1%の増加を記録した。この要因は、主に発電事業においてコストの高い資源（石炭、天然ガス等）を使用する火力発電が増加し、水力発電が減少したことにより、付加価値が減少したことにある。ガス供給も同じく減少を見せたが、廃棄物処理の増加によって一部が相殺された。

カ 建設

建設は、前年同期比▲0.6%の減少を記録した。住宅建設の減少により建築工事は減少し、修理需要の減少に伴い専門サービスも減少を見せた。他方で、鉱業及び発電プロジェクトへの投資拡大に伴い、エンジニアリング工事は増加した。

キ 商業

商業は、前年同期比1.4%の増加を記録した。主な要因は、小売業及び自動車販売の増加にあり、他方で卸売業は減少を見せた。小売業は、食料品店、衣料品専門店及び電子商取引プラットフォームにおける販売が顕著であった。自動車販売は、主に整備や部品に対する需要増加によるものであり、これに軽自動車の販売増加も寄与した。卸売業は、主に果物の輸出減少の影響を受けた食品販売の落ち込みに伴い縮小した。

ク 運輸

運輸業は、前年同期比0.6%の増加を記録し、海運を除く全ての構成要素が増加に寄与した。この中で特に目立ったのは、航空・陸上旅客輸送であった。

ケ 通信・情報

通信・情報は、前年同期比▲0.9%の減少を記録した。これは、通信分野における有料テレビ加入者の減少や情報サービス全般の活動が奮わなかったことが影響した。

コ 企業向けサービス

企業向けサービスは、管理サービス（賃貸・リースサービス等）の増加を専門サービス（建築・エンジニアリングサービス等）の減少が相殺し、前年同期比0.2%の増加を記録した。

サ 個人向けサービス

個人向けサービスは、医療サービス及び教育サービスの貢献により、前年同期比2.4%の増加を記録した。

● 経常収支

5月18日、2026年第1四半期の経常収支も発表され、結果は18億8,300万米ドルの黒字であった。